

もやりました。作戦要務令にきめられている戦闘詳報の仕事も私がやりました。そんな関係もあって、師団各隊の動きや戦闘状況などがよくわかる部署にいたといえます。

また仕事の関係で輜重隊との交流が多かったように思います。時には軍需物資の輸送に従事したこともあり、私の元来の教育を受けたのは軽機関銃です。

―日本軍の装備について教えて下さい。

敵の重火器はソ連製（水冷式）が多く使われていたようです。それから昭和十六年の二回目の召集の時は、葉盒も皮革ではなく紙を圧縮したものでした。帯革も皮革ではなく綿製の厚いベルトでした。靴もブタ皮の靴、背囊はリュックサックのようなものでした。日本もだいぶん物資が不足しているなあと思いました。

機工兵の話

兵庫県 島川 秋男

―島川さんの軍隊当時の話をきかせて下さい。半世紀以前のことですから、お忘れになられたことが多いでしょうが、よろしく願います。

私は昭和五年徴集ですから、もう八十歳です。でも現役で入営しました。

当時の現役兵といえますと、心身共に健全な者でないとなれなかったでしょう。

私は徴兵検査の時異議を申し立てました。当時としては非国民的発言でした。

「私の様なものが甲種合格はおかしいです。本当は体は弱いのです。立派ではありません。」

と言ったがきいていただけず、一月十日に岐阜県各務原の独立飛行第一連隊に入営しました。

―飛行機関係というと、あのころは優秀な人でないと

行くことが出来なかったですね。

そうです。大学出身のような人だけがいきました。私はふむきでした。

—初年兵の一期の検閲までは一般兵科でやるのでしよう。

そうでした。半年の間は基本を教えられました。教えるというより、たたきこむといった方が正しいでしょう。それから特業として飛行機工手になりました。

—機工手（兵）の内容はどのようなことですか

飛行機の整備、点検等をやります、機関の調子を調べ、いつでも発進できるように迅速に処理すること、タイヤの空気圧、グリスアップ、ボルト・ナットの一つ一つに細心な注意を必要としました。

翌年二月に出動命令が来ました。宇品から輸送船で上海に送られました。上陸後に公大飛行場に連れていかれました。そこで航空機の整備と滑走路の整地をやりました。舗装路はよいが、地道の滑走路だと草がおいしげう。雨の時は水抜きなどをしました。ちょっとした油断もできません。まあ古い昔のことだから嘘のような話ですね。

—飛行場以外での勤務はなかったのですか。ありましたらお話下さい。

上海付近になんとも戦闘がありません、そのつど出て行きました。そのようなときだけ三八式歩兵銃を手にしました。平常勤務のときは鉄砲なんか持ったことはなかった。

—整備兵、機工兵、電工、鍛工、縫工等々ありますが、そうした特業の人は戦闘が主ではないから常時武器をもつことはないですね。

そうです、大場鎮や劉河鎮の戦闘は大変でした。夜寝ることができなかった。敵が夜襲をずーっと仕掛けてくるのです。日没から夜明けまで、毎夜連続の戦闘でした。昼は治安維持警戒等々で、寝るときは、いつだというようでした。神経戦でした。上海は大会です。この警備は大変です。軍関係の各部、各所を警備し、また浜辺のけいびに出勤したり大変です。

市街の要所に土嚢を積んで分哨を配慮して、四六時中、交代勤務しました。五月に帰れるようになったとき、やれやれと思いました。

—原隊復帰されたのですか。

岐阜の各務原へ帰りまして、十一月に除隊し、淡路へ
帰りました。

二度目の動員(召集)が昭和十四年八月にありました。
九月に姫路の輜重兵第十連隊へ入隊しました。兵站自動
車中隊でした。私の原隊ですよ。その時にはじめて、輜
重隊に自動車を導入したのです。飛行機も自動車もエン
ジンは同じです。ただ翼のあるなしだけです。整備もよ
くわかっていますから、十分働きました。

—姫路は長かったですか。

すこしいてから編成ができてまして、満州へ出勤せよの
命令でした。

—前回は中支那方面で今度は満州ですか。

そうです。宇品から船出しました。釜山へ上陸して、
鮮満国境(凶門)を通過して関東軍隷下にはいりました。
それから牡丹江に着いて部隊へはまりました。

—桂木斯ではないのですか。

牡丹江でした。そして同地区警備でした。十月頃から
綏芬河から東寧の間を輸送しました。冬期はすべて凍っ

ているから自動車はどこでも走れ輸送の好期です。

—輸送はどんなものでしたか。

食料品が主でした。その他建築資材等もたくさん運び
ました。また陣地構築材料もありました。

翌年正月に北支派遣軍に転属命令が出ました。軍用列
車の貨物車に乗せられて、山海関を通過して中国いりし
ました。済南に到着して、第十二軍第六兵站自動車隊で
した。飛行機の機工も自動車の機工も同じで、機関が同
一です。そして同地区の警備等を行いました。以前に上
海地区で警備勤務をしたことがあります。要するに野戦
下番です。要領は十分心得ていますから、若い兵隊を上
手に指揮してよく働きました。三月にまた徐州に転属を
命ぜられ、同じような警備隊で勤務をしました。北支の
冬は北滿と同様でした。古年兵の体には、この寒さが一
番大敵でした。春になって若草が芽を出すころホットし
たものです。

六月になって、また転属命令ができました。私は補充要
員だろうか、本当に転属につく転属でした。北に南に東
から西へと移転、また移転だった。

今度の転属はどこかなと戦友たちと話していたら青島だということです。ヒョットしたら帰還かと思ったらそのとおりだった。六月十八日乗船し出帆しました。

六月二十五日輜重兵第十六連隊へ帰着しました。岐阜です。中国と違って日本は水も空気もおいしいです。七月に召集解除になりました。淡路島へ帰りました。

以上です。私の兵隊歴は実役三十四か月でした。その後は兵庫県の川西航空製作所に軍属として終戦まで勤務しました。

種々申しあげましたが、何分昔のことなので忘れたことが多く、とくに苦勞したことは忘れて、楽しいことだけが頭に残ります。今思い起こしてお話をもっともなかなか至難な問題でした。

— 苦しい事や、いやな事を思いださせまして済みませんでした。いつまでもお元気で。

三十七歳の初年兵

兵庫県 奥浜隆雄

— 奥浜さんの戦歴の概略をお聞かせください。

私は昭和四年徴集で第一乙種の十六番でした(徴兵猶予組)

昭和十九年二月に充員召集で大阪歩兵第一〇八連隊(百四師団・鳳兵团)に入隊しました。通称号「波」集団です。召集で集合したのは姫路の寺院でした。当時私は三十七歳でした。

朝鮮に渡り、朝鮮から南方戦線に行く予定であったようなのですが、朝鮮の仁川港で輸送船が予定通りにこられなくなったものですから、予定を変更して朝鮮平壤歩兵第七十七連隊の咸興分遣隊に入隊しました。

ここで第一期の検閲を受けて新兵教育を終了し、南方要員として上海をへて南京に向かいました。私は南京での滞在が多かったのですが私一人で転属また転属で、あ